

# 日本プロオーケストラファンクラブ協議会(JOFC) 全国交流会のしおり

## 式 次 第

開会宣言

歓迎あいさつ ----- JOFC会長 上田 文雄 (札幌くらぶ会長)

お客様紹介 ----- 札幌市長 秋元 克広様あいさつ

----- 札幌交響楽団理事長 村田 正敏様あいさつ

乾杯 ----- 札幌交響楽団理事長 村田 正敏様

交流会

テーブルスピーチ

加盟ファンクラブ紹介 (オブザーバーを含む。)

仙台フィルハーモニークラブ (宮城) 山響ファンクラブ (山形)

群響ファンズ (群馬) 都響倶楽部 (東京) 石川県立音楽堂楽友会 (石川)

名フィル・ファンクラブ (愛知) 広響フレンズ (広島) 札幌くらぶ (北海道)

九響倶楽部 (欠席。福岡) NPO法人 オーケストラ創造 (欠席。熊本)

閉会宣言

記念写真撮影

## J O F C 札幌大会によせて

J O F C 会長 上田 文雄 (札幌くらぶ)



札幌大会にご参加の皆様、ようこそ札幌においで下さいました。心から歓迎申し上げます。今回で第12回目の大会です。札幌の定演をお楽しみ頂き、会員クラブの活動状況の情報交換を通じて、それぞれ「我が町のオーケストラ」を応援する元気と工夫を持ち帰ることができれば、嬉しく存じます。

私は、この頃「なぜ私たちはオーケストラを応援するのか？」ということを考えます。そして、オーケストラでしか聞けない楽曲の美しさと、自分一人ではなく大勢の人と一緒に聞く感動を共有する醍醐味を知っているから、という答えに行き着きます。

長きにわたり万人に感動を与える音楽美は、人の技ではなく神の手によるものであるに違いない。神が美しい調べを、天才とよばれる作曲家の手を借りて楽譜に表し、そこから神の美を読み取るため特別の情熱をもって訓練を重ねた楽師がこれを再現、私たち凡人が神の妙なる調べと美しき和音を享受できる。

私たちの街には、音楽美を追求しようと懸命に努力している楽師がいる。彼らの奏でる音楽美を、私は多くに人と一緒に、満席のホールで味わいたいのです。

札幌には10月7日本格的オペラ上演可能な多目的ホール *hitaru* (浸る) がこけら落としを迎えます。私たちの札幌が活躍の場面を拡大し、私たちの新たな音楽美との出会いがキタラに加えてここから始まることを、ともに喜びたいと存じます。

## お祝いのことば

北海道知事 高橋 はるみ



第12回JOF C札幌総会2018の開催を心からお祝い申し上げます。

人と人との心を繋ぎ、日々の生活に潤いをもたらす音楽は、時代を超え、世界のあらゆる地域で多くの人々に親しまれています。

中でも、様々な楽器の音色が重なり合い、一つの音楽を創り出すオーケストラは、私たちの心に大きな感動と安らぎを与えてくれます。

日本プロオーケストラファンクラブ協議会の皆様におかれましては、日頃から、プロオーケストラへの支援等にご尽力されていることに敬意を表しますとともに、本道はもとより、全国における音楽文化の振興に多大なるお力添えを賜り、厚くお礼申し上げます。

道としましても、本道の誇るべき歴史や文化を次の世代へと引き継いでいけるよう、未来を担う人材の育成や、心豊かな社会の実現に一層取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、開催にあたりご尽力された関係の皆様へ深く敬意を表しますとともに、本総会のご盛況を心から祈念し、お祝いのことばといたします。

---

## お祝いのことば

札幌市長 秋元 克広



日本プロオーケストラファンクラブ協議会の第12回総会が、6年ぶりに札幌で盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から札幌にお越しいただいた皆様を歓迎いたします。

協議会の皆様におかれましては、全国各地のプロオーケストラ発展と地域における文化芸術の普及振興のため、日頃より精力的に活動を展開されておりますことに深く敬意を表します。

札幌市では、市民の感性や創造性を育み、生活を豊かなものにするため、文化芸術に親しむ環境の充実に取り組んできたところです。その一つでもある札幌交響楽団は、1961年の結成以来、長きにわたり北海道唯一のプロオーケストラとして、その卓越した演奏を通じて多くの方々を魅了するとともに、世界に札幌の名を発信していただいております。札幌くらぶの皆様には、様々な場面で札幌交響楽団の活動を支えるとともに、札幌のまちづくりにもご理解とご協力を賜っており、心より感謝申し上げます。

結びになりますが、都市と自然が調和した美しい景観を有する札幌は、道内各地から旬の味覚が集まる食の宝庫です。ぜひこの機会に、札幌の魅力を存分に満喫していただければ嬉しく思います。本日のご盛会と会場にお集まりの皆様のごより一層のご活躍を祈念しまして、お祝いのことばといたします。

## お祝いのことば

公益財団法人 札幌交響楽団理事長 村田 正敏



さわやかな風が吹き渡り、実りの季節を迎えたここ札幌で、第12回JOF C日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会が盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

日ごろ、私たちプロオーケストラの活動に対し、各地で多大なるご支援をいただいていることに、深く感謝いたします。

札幌交響楽団は1961年に誕生した北海道唯一のプロオーケストラです。60年近い歴史の中では、解散寸前の経営危機に陥ったこともありました。それを乗り越えることができたのは、楽団自身の身を切るような努力と関係機関のご協力に加え、札幌くらぶをはじめとするクラシックファンのみなさんの物心両面にわたる支えがあったからです。

プロオーケストラにとって、経営の厳しさは共通の悩みです。それでもオーケストラが日々演奏活動を続けているのは、私たちが奏でる響きを楽しみに待ってくださっている人たちがいるからでもあります。ファンクラブはその代表的存在と言えるでしょう。

本日の総会を通じて、JOF Cがますます活動の輪を広げ、各地のプロオーケストラをいっそう応援してくださることを祈念して、お祝いのことばといたします。

---

## JOF Cへのメッセージ



札幌へ、そして素晴らしい札幌交響楽団へようこそおいでくださいました。今日のコンサートにみなさまをお迎えできることを心から嬉しく思っております。

時折、私は指揮者よりも美術館の館長になった方がよかったのではないかと思うときがあります。朝、美術館を開ける、お客様が入ってこられて、芸術作品を堪能する、そして夕方になると、私はドアを閉める。穏やかな日でしょう。音楽では同じようにはなりません。音楽は演奏されること、生で演奏されることが必要なのです。

音楽が演奏されなくなる、それは死と一緒に、存在すらなくなるということなのです。音楽に命を与えるには、演奏家、オーケストラ、独奏者、指揮者が必要です。

オーケストラはとても複雑でお金のかかる組織です。皆様のようなファン、支援者、聴講者、友人、お客様をたくさん必要としています。私達はすべての方への音楽を作っていきたいと思えます。演奏する街の文化的な財産になりたいと思っています。私達だけではそこまでできません。でもみなさんがファンとして、友人としてお力を貸してくださるのなら、できます。すべての音楽家、オーケストラに代わって、みなさまのご支援に対し心から感謝申し上げます。



札幌首席指揮者 マティアス・バーメルト



## J O F C 2 0 1 8 「推奨事例の紹介」

全国のおケファンは、交響楽団の演奏を楽しむだけではなく、オーケストラと市民をつなぎファンの立場でできることを見極め、様々な角度から支援をしています。その一端をご紹介します。J O F Cはこのような事例を全国に紹介しています。

親子で楽しむKid'sコンサート（名フィル・ファンクラブ代表幹事 山田 博子）



時が流れるのは早いもので、当ファンクラブがJ O F C 総会に参加して早くも11年が経とうとしています。毎年総会で必ず課題になるのがクラシックファンの高齢化に伴う来客数の減少とその対策としてのファンの拡大についてです。

答えのない難しい課題ですが、何か始めようと思い、三井住友銀行に共催をお願いして、子どもを対象とした「親子で楽しむKid'sコンサート」を開催することにしました。ゼロ歳児から参加可能で、泣いても、騒いでも問題なしとしています。

しかし、子どもたちは静かに聴き入り、知っているメロディが流れると自然にみんなで歌い出すなど音楽を目一杯楽しんでくれています。名フィルの楽団員たちも、子どもでも聴きやすい短い曲を用意して優しい言葉で語りかけ、楽器の紹介や音の出るしくみなどを分かりやすく説明してくれています。

「小さな子どもが大きくなるのは何年後？」と言われるかもしれませんが、カラダを揺らし、歌いながら演奏を聴く小さな心の中には、きっと何かを感じ何かが芽生えているはずです。その小さな芽生えを大切に育て、それが良き思い出になり、大きくなって名フィルの演奏会を聴きに来てくれれば嬉しいです。そんな日を夢見ながら、近い将来1人でも若い名フィルのファンが増えることをひたすら願っています。

中学生・留学生を札幌演奏会に招待（札幌くらぶ副会長兼事務局長 西川 吉武）

「中学生を札幌ファンに」 2012年から、一般財団法人札幌市職員福利厚生会のご協力により、札幌市内中学校吹奏楽部の生徒を中心に札幌定期演奏会に招待する事業を行っています。2004年から札幌くらぶが提案して実現した小学6年生全員がキタラホールで札幌交響楽団の演奏を聴く「ファースト コンサート」に続く、セカンドコンサートとして札幌市における青少年の芸術文化活動に大きく寄与している事業です。2017年末累計93校2,975人となりました。



「留学生を札幌に」 札幌のファンを市民、道民のみならず、世界中にひろげようと札幌在住の留学生に札幌コンサート鑑賞を2015年から2017年まで97名を招待できました。会員からの寄付等により支え招待しています。

「楽譜支援」 このことが全国おケ関係者の話題になっているようです。年会費から500円分を会員全員が寄付し、かつ追加支援を任意でお願いしています。会員の中には「演奏会は行けないけど札幌のファンだよ」と言って寄付してくれる方もいます。2006年度からスタートした楽譜支援制度は、年間50万円で12年間累計600万円となりました。